



“アリアの楽器は<sup>の</sup>大人好みだね。”とよく耳にする。この言葉はわれわれアリアには嬉しくもあり、また少し残念な気もする。われわれが誇りとするテクノロジーやクラフツマンシップが、プロミュージシャンや専門家に評価されるほど光栄なことはないが、やっぱりもっとも多くのギターキッズにその良さを理解してもらいたいから。“SOUND & PLAYABILITY”われわれがギターづくりをするときにいちばん大切にすることアリアプロIIにしる、エレコードにしる、数あるモデルそれぞれのミュージカルパーパスこそ異っても、このテーマは、永遠に、共通だ。

## アーティストのナマの声を反映

アリアを弾くプロミュージシャンは数多い。渡辺香津美、ニール・ショーン、マークス・ミラー、バズ・フェイン etc.etc.。彼らのうちの多くは自分でアリアを購入したのが発端となってエンドースメントに発展している。契約金は、なし。われわれが彼らのファンであるのと同時に、彼らもアリアのファンであるから。ともあれ、彼らアーティストはわれわれの貴重な情報源だ。例えばPE-R80、渡辺香津美のインスピレーションからあのラミネイトボディが生まれたし、“CLASSIC POWER”ハムバuckerも香津美の試奏テストによりスベックが決定された。PE-60の2層ラミネイトボディにしてもニール・ショーンのアドバイスがヒントになったのだ。というように、プロの極限に近い条件をもクリアするアリア、信頼に足るインストゥルメントだ。



渡辺香津美



ニール・ショーン



マークス・ミラー

## 先進のギター・テクノロジー

アリアプロIIのロゴタイプに付く“the advanced electrics.”が象徴するように、アリアは高い技術力を誇りしている。electricsとはエレクトリックギターのこと、何もエレクトロニクスに限らない。例えばヒールレスカットウェイ、アッパー・ポジションでの演奏性を飛躍的に高めるこのフィチュアは、しっかりとした設計と、秀れた木工技術なしには実現不可能だ。



RSサーキットやBBサーキット、発表後数年を経た今なお最先端を行く究極のエレクトロニクスだ。エレコードにしても然り、時代の寵児ニューセラミクス技術が生んだELECORD™ピックアップ、FE-Tシリーズの単板アーチトップキフィクストブリッジ、エレアコの将来は方向づけられた。

## 常識を超えたコストパフォーマンス

音楽やってプロのあつたかい奴って少ない。何故かわからないから。でも、大切にしたい、ハンガリー精神、アリアは財布の軽い愛すべきギターキッズに理解を示そう。コストパフォーマンスには絶対の自信がある。その秘密は問われても答に困る。別に何の秘密もありません。別になんか。アリアのギターはすべて第一級のマテリアル、第一級のファクトリー、第一級のクラフツマンシップからつり出される。私たちが楽器づくりのプロフェッショナル。そこに妥協はない。



## 世界中で愛用されるアリア

マークス・ミラーはニューヨークで、ジャック・ブルースやジョン・テイラーはロンドンで、アリアを買った。これら音楽の潮流地以外にもアリアの拠点は世界中に拡がっている。国別ではU.S.A.、カナダ、フランス、イギリス、西ドイツ、スイス、オランダ……七実に14ヶ国を数える。キミの腕が上達して、ロサンゼルスやロンドンでレコーディング、ということになっても、向こうでメンテナンスやサービスが受けられる。ワールド・ワイド・ブランドならではの大きな強味だ。

